

「丹後地域における府立高校の今後の在り方」に係るアンケート調査回答票

◎複数の用紙をお持ちの方(お子さまが2人以上いらっしゃる方)はいずれか1枚に記入してください。  
◎該当する項目に☑を付ける、又は〔 〕内に記入してください。

1 お住まいの地域について

宮津市 京丹後市 伊根町 与謝野町

2 お子さまの学年について(該当する〔 〕に人数を記入してください。)

小学校 1年生〔 〕 2年生〔 〕 3年生〔 〕 4年生〔 〕 5年生〔 〕 6年生〔 〕  
中学校 1年生〔 〕 2年生〔 〕 3年生〔 〕

3 丹後地域における府立高校の在り方を検討していることについて

よく知っている 知っている あまり知らない 全く知らない

4 丹後地域における府立高校の在り方に関する検討の内容について

(3で「全く知らない」と回答した方を除く)

よく知っている 知っている あまり知らない 全く知らない

5 今後も生徒数が減少する見込みの中、現在の高校の在り方を変えていくことについて

必要なことだと思う 仕方がないことだと思う どちらでもよい  
必要ないと思う よくわからない

6 府立高校の今後の在り方の方向性として提示した「三つの道」について

小規模になっても各高校を本校のままで継続すべきだと思う  
統廃合により学校規模を確保し、教育内容の充実を図るべきだと思う  
近隣の複数の高校を1つの高校として再編する「学舎制」を導入すべきだと思う  
よくわからない

その他 [ ]

7 丹後地域の府立高校に必要であると思う教育内容について(複数選択可)

普通科教育 農業に関する教育 工業に関する教育 商業に関する教育  
水産に関する教育 家庭に関する教育 総合学科

その他(他に必要だと思う内容や、上記の選択肢に補足するご意見などを記入してください。)

[ ]

8 高校の在り方等についてお考えのことがあれば自由に記入してください。

[ ]

ご協力ありがとうございました。本回答票は配付した封筒に封入の上、9月16日(金)に学校に提出してください。ただし、学校から別途指定された場合はその日に提出してください。

【参考 保護者アンケート配付時に同封した資料】  
アンケートにお答えいただく前にお読みください。

## 丹後地域における府立高校の在り方の検討状況について

### ＜丹後地域の高校の現状＞

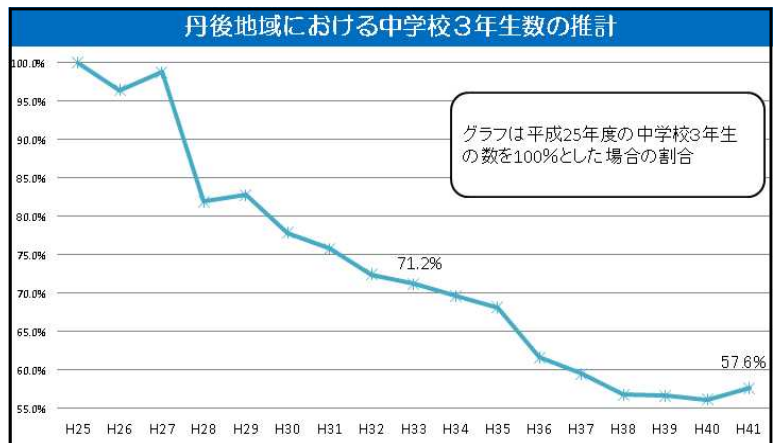
現在、丹後地域にある府立高校は、裏面の「図1」とおりのとおりですが、この地域では、今後、中長期的にみて、生徒数が大幅に減少することが見込まれています。

このため、高校の規模は次第に小さくなり、5年後の平成33年度には、各高校（本校）とも平均1学年3学級程度になると想定されます。

### ＜小規模化により想定される主な課題＞

一定の規模があった高校が、小規模になっていくことによって、次のような課題が生じると想定されます。

- ・ 集団活動の機会が十分確保できず、学校行事・生徒会活動等の活力が低下
- ・ 部活動（特に団体競技）の人数が確保できず、公式戦に出場できない。
- ・ 教員数が減少し、生徒の多様な選択に対応した教科等の授業ができなくなる。



年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
				現中3			現小6		
人数	1,100	1,060	1,086	901	910	856	833	796	783
年度	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	
			現小1					H26生	
人数	766	749	678	654	624	623	617	634	

### ＜丹後地域における府立高校の在り方に係る基本的な考え方＞

#### 【本校の在り方】

生徒数の推移だけで見ると、10年後、丹後地域には5～6学級規模の高校が2校あれば対応が可能（※1）となります。一方で、地域における高校の役割を踏まえると、「数」だけで再編・統合をすることはできないと考えており、そのため、今後の丹後地域における府立高校の在り方として、次の「三つの道」をお示しします。

**第一 各高校を本校のままで継続する。**

**第二 統廃合により学校規模を確保し、教育内容の充実を図る。**

（宮津・与謝地域で1校、京丹後地域で2校に統合、海洋高校は単独校として継続）

**第三 近隣の複数の高校を1つの高校として再編する「学舎制」を導入する。**

京都府教育委員会は、第三の方向で検討を進めることを基本としたいと考えています。

#### ◆学舎制とは

教育環境の充実、通学の利便性を図るため、近隣の複数の高校を1つの高校とし、元の高校をそれぞれ“学舎”として活用する形態です。日常の授業は各学舎で行い、学舎間で多様な交流・連携の機会を持つことで様々な教育の可能性が広がります。

#### ◆学舎制のメリット

学舎制の導入によるメリットとして、次のような例が挙げられます。

- ・ 専門性の高い教員が学舎間を移動して授業をしたり、ICT機器を活用した遠隔授業などを行うことにより、小規模校よりも選択教科等の幅が広がり、多様な教育を展開できる。
- ・ 合同の部活動によって人数が確保できることで、公式試合などに参加ができる。

#### ◆学舎制の対象校

地域毎の生徒数の推移などを踏まえ、「宮津高校と加悦谷高校」、「網野高校と久美浜高校」で学舎制を導入したいと考えています。海洋高校と峰山高校はそれぞれ単独校として継続します。

◆今後必要な対応策

- ・学校行事や部活動等の合同実施に向けた学舎間の緊密な調整
- ・学舎間を結ぶスクールバスの運行 など

◆学舎制を基本とする理由

地域創生が推進されている中、地域の活性化等に向けて高校の果たす役割に期待する声も多くあります。そうした声に応え、これまで各高校が地域で培ってきた教育を継承し、地域での高校の役割を果たしつつ、未来に向かってこれまでにない新たな形での教育を創造していくことが、当地域での高校教育の更なる充実を図るために必要です。そのため、府教育委員会では学舎制を基本に今後の在り方を検討したいと考えています。

教育内容については、高校での検討や中学生の進路希望の動向等も踏まえて検討します。基本的には「図2」のとおり現在の教育内容の継承・発展を前提としつつ、再配置や学科の見直しを行っていきます。

【分校の在り方】

各分校での取組を継承させつつ、その機能を集約して教育内容の充実を図るため、宮津高校伊根分校、峰山高校弥栄分校、網野高校間人分校の3校を1校に統合し、弥栄分校の校地において、個々の生徒のニーズに応じた柔軟な教育を行う京都フレックス学園構想（※2）に基づく学校づくりを行います。

皆様からのご意見を踏まえ、今後さらに検討を深めたいと考えております。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

<補足説明>

- ※1 高校の適正規模…法令上、規模に関する定めはないが、高校生の発達段階を踏まえると、高校は多様な価値観の中で自己を確立し、社会で活躍する素地を養う場であるべきであり、そのためには一定の規模が必要と考えられる。1学年4～8学級を高校の適正規模としている都道府県が多い。
- ※2 京都フレックス学園構想…従来の全日制、定時制、通信制といった固定概念にとらわれない新しい高校づくり。例えば、単位制により卒業までの年数を3年又は4年と選択できるようにするなど、自分のペースで学びたい生徒の多様なニーズに対応する柔軟な教育システムの構築と若年者の社会的自立を支援する教育の推進を目指すもの。

